

## 障がい児者の医療を守る緊急集会を終えて

北海道自閉症協会  
会長 上田マリ子

2月26日、皆様会報掲載でご存知の通り、「障がい児者の医療を守る緊急集会～児童心療センター、のぞみ学園の原状回復を願う～」の集会がかでる2・7で行われました。当初参加人数が読めず、多少の心配がありましたが、約120名の方々において頂き、お席に座れない方もおりました。この集会を行うに当たり、3回ほどの打ち合わせを行い、各分担と、親の立場としてのぞみ学園がいかに家族の支えになったかの思いを伝える勇気のある方もおられましたので、報告を致します。

- ①開会の言葉 司会者 札幌市手をつなぐ育成会副会長（菊池 洋子）
- ②挨拶 主催者組織の代表 札幌市手をつなぐ育成会会長（那須野 益）
- ③基調報告 主催者を代表してこれまでの報告 社会福祉法人はるにれの里 理事長（木村 昭一）
- ④経過報告 福祉事業者より 厚田はまなす園 所長（菊池 道雄）  
研究者より  
親の立場として 3名

### ⑤会場より

### ⑥決議 親の立場・当時者組織として 北海道自閉症協会会長（上田マリ子）

- \* のぞみ学園は、施設での強度行動障害を助けてくれた、療育も大きな役割であった。今後、自傷 他害 異食等のある医療を必要とする方の入院が出来ない。
- \* 自閉症 発達障がい者の本丸である、児童精神科を目指す者のトレーニングの場でもあった。
- \* 息子が目を患い、術後身体を拘束され、退院寸前に大発作があり、緊急にのぞみ学園に入院、手厚い看護を受けた。18歳以後の人生が長い、身体にメスが入ったおりは、静療院で入院治療が出来た、一般病院では診てくれない。
- \* 教育現場での対応のまずさで家庭でも大変な状況となり、小児病棟に入院、その後も最後の頼みは、のぞみ学園であった。
- \* 家庭で様々な問題行動があり、家では対応出来ない事情でも、すぐ入院させてくれ感謝しています。

### 最後に上田のまとめ

北海道自閉症協会の前身である、北海道情緒障害児者父母の会（初代会長田中氏）は昭和42年6月に雪印パーラーにて会員30名で設立総会を開催、東京 大阪 名古屋に続く早い時期の設立であった。北海道と札幌市に陳情請願を繰り返して、昭和48年に児童部、57年に日本初の医療型施設の第1号となる札幌市のぞみ学園を開設しました。約40年に渡り自閉症児者を治療し、福祉に繋げてきました。その役割は先人の偉大なるそして命をかけた事業でした。いまここでこうして皆様にお話出来るのも、尊敬する田中さんのお陰です。

昨年四月に大人の静療院が市立札幌病院に移転、そのおりに重度自閉症者は市内の精神病院にやむを得ずに移動、その際親は「閉鎖病棟か手足を拘束しますよ」と医者に言われサインをしました。親も年老いて家庭で見る事は不可能な状況、泣く泣くサインをしたとご相談を受けた事があります。投薬も多いと、何の力もない自分が情けないです。民間の精神科は自閉症支援のノウハウがないので……。

今後、札幌市にお願いしたい事、民間の精神科に入院する事が増えるでしょう。自閉症者に心ある優しい精神科を札幌市の責任で管理して頂きたい。そして、この度は児童精神科の医師を確保出来ませんでした。札幌市行政と協力し、児童精神科を育てましょう。様々な組織の方と集会ができ、大勢の方にご参加頂きましたことに感謝申し上げます。